



今から約30年前の1995年1月17日、関西でマグニチュード7.3の大地震、「兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）」が発生しました。こ



大容量送水管（オレンジ）

これは令和6年能登半島地震に近い非常に大きな規模の地震で、水道の施設や水道管に被害が

と大阪府内の32市9町がかりました。で約129万戸の断水が発生しました。特に被害が大きかった神戸市で、断水が解消されるまでに約3カ月

1995年に大震災を経験

神戸市水道



また、神戸市水道局としても、地震が起こっても水道が使えるようにするための計画をたて

こうした阪神・淡路大震災での大きな被害を重く見た日本の水道に関するたくさんの方に、社は、「地震に強い水道」にするため、「耐震性」のある水道管や設備などの開発を本格的にスタートしました。



普段は水飲み場、災害時には給水栓として使える「いつでもじゃぐち」



災害時に住民が使える「ふっQすいせん」

ました。もともと神戸市には、たくさんの方の住民がいる一方で、神戸市が持っている水源だけでは十分な量の水道水をつくれません。そこで市外から「送水トンネル」というルートをつくり、水道水を届けてもらうことで、多くの量を補いながら、市内の「水道管」を通じて住民に水道水がいきわたっています。

大きな地震が起こり、送水トンネルがとだえてしまったとしたら、もっと長い間断水が続く可能性があります。そこで神戸市水道局は、対策として、市外から水道水を届けるルートを増やすために「大容量送水管」をつくりました。大きな工事なので、完成するまでに20年がかかりました。



訓練で災害に備える

神戸市水道局では、こうした取り組みをはじめ、「災害に強く、早期復旧が可能な水道づくり」を目指し日々努力を続けています。